

生・性・SAY

令和5年12月 保健室

～保護者の皆さまにお読みいただきたい養護教諭からのメッセージです～

この「生・性・SAY」は嶺南地区の高校の養護教諭が協力し、年2回「生と性」に関連する話題を選んで、保護者の皆様にお届けしています。ご家庭でお子様と話すきっかけになれば幸いです。今回はドキリとする、少々重い話題です。しかし、子どもたちにとって、大切なお話です。



「生まれない方が幸せ?」「反出生主義」「少子化」「高校生の性意識」

「東京新聞 子育て世代がつながる 東京すくすく <https://sukusuku.tokyo-np.co.jp/birth/72035/>より」

「私は生まれなかった方が幸せだと思っている。子どもを持ちたいとは思えません」。岐阜県の女性(35)から、本紙に、そんな投稿が届いた。全ての人の出生を否定的に捉える考え方は「反出生主義」と呼ばれ、関連の書籍が出版されるなど注目を集めつつある。この女性もそうした考え方を支持する一方で、恋人がいて複雑な思いも。「多くの方の意見を聞いてみたい」という女性と会い、思いに耳を傾けた。

全てに嫌気 心地いいのは「無の状態」

生まれなかった方が幸せだと思えるのはなぜか。女性は「働くことや家族との関わり、日常生活の全てに嫌気が差している。頑張ることにも、ただ生きることにも非常に疲れた」と話す。反対に心地いいと感じるのが「無の状態」。寝ている間の無意識が好ましく、起きている間は「考えることも意識がある今も嫌」という。そうした感覚は幼い頃から。最初の記憶は定かではないが、小学校低学年で、両親に「私は自殺して死んだ方がいいですか?」と手紙を書いたことがある。子どもの頃からネガティブ思考で、考え過ぎてしまう気質があったと感じている。

両親から愛されていると思えなかった

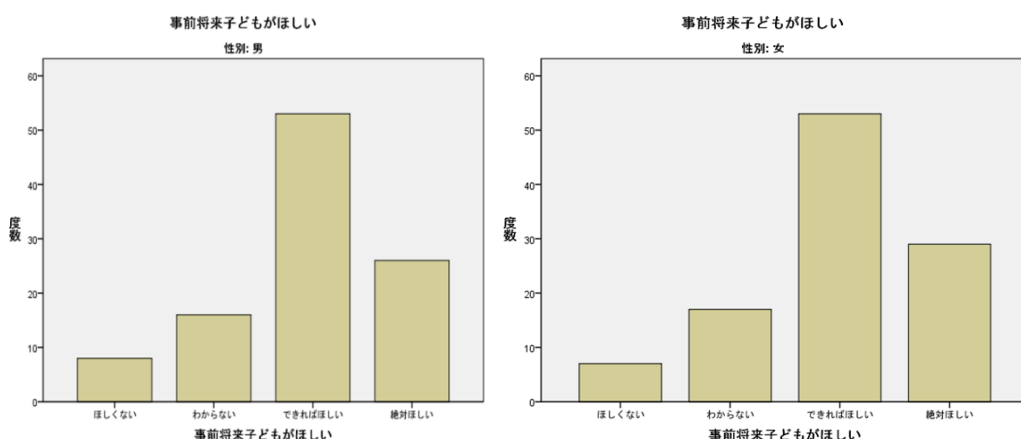
会社員と専業主婦の父母、弟との4人家族。「両親から愛されていると思えたことがない」ことも自分の考え方に影響していると感じる。両親はお金の問題でもめる機会が多かったほか、週末は趣味のパチンコに出かけるため、渡される1000円で弟と昼ご飯を買って食べた。中高ではいじめに遭い、20代の頃からうつ病で投薬治療やカウンセリングを受けた時期もある。

うつが悪化した数年前、両親とそれまでの葛藤について話し合った。父親には「誰のおかげで生活できていると思っている」、母親には「愛情を持って育てたのに泣けてくる」と言われた。「だとしたら私の受け取り方が悪かったと、自分を責める結論に至った」。同時に「自分の都合しか考えないのに、なぜ子どもをつくったのか」と両親を恨む気持ちもあったという。

「中日新聞 令和5年9月13日 「生まれない方が幸せ」「反出生主義とは識者に聞く」より

森岡正博・早稲田大教授「簡単に言えば、全ての人間は生まれてこない方がいいし、すべての人間は産むべきではないという思想」と説明する。哲学の世界では2千年以上前から存在する思想。20世紀になって出産を全面否定する考えが加わった。一般社会ではこれまで出産はほぼ肯定的に語られてきた。産むことを否定的に捉える考えは、「目新しいし、衝撃的」。人生の大事なことを快か苦痛かの2つで考えることは「人間が生きることの多様性が無視されている」この思想は「死んだ方がよい主義ではない」「すでに生まれてきている人が誕生否定的な考えを持ったまま死んでいくのはすごく残念。有限の人生をどうしたらいいのかを考えるヒントや議論の下敷きにしてほしい」としている。

さて、高校生はどのように考えているのでしょうか。「将来、子どもがほしいと思いますか？」の答えは？？
(令和5年 A高校1年生 性教育講話の事前アンケート結果より)



子どもがほしくない理由は…??? (「ほしくない」、「わからない」人にききました)

〈男子〉

- 1位 育てるのが大変そう
- 2位 早すぎてわからない
イメージがわからない
- 3位 無理だと思う

〈女子〉

- 1位 早すぎてわからない
- 2位 育てるのが大変そう
結婚したくないから子どもはほしくない
- 3位 産むのが嫌、無理だと思う
イメージがわからない

また、自尊感情(自分に満足している、自分は価値のある存在である等)との関係では、男女ともに自尊感情が高いほど、将来、子どもを持つことに積極的な気持ちをもっていることがわかりました。



一方、「死にたいと思うことがある高校生」は…男子 16.7%, 女子の 25.3%が「日頃、死にたいと思うことがある」と回答し、女子は男子の 1.5 倍高値を示した。また、中学生よりも高校生の方が高い値を示した(日本学校保健会、2020年)

特に理由もなく、日常的に「死にたい」と思う高校生が2割程度…「生まれてこない方がよかった」とする考えと似ているかもしれません。2割という数字は、増え続ける青年期の自殺と連動しているように思えます。15 歳から 19 歳の若者の死因の第1位は自殺(厚生労働省、2020)と言う現状があります。「将来、子どもがほしい」と考えるには、現在の自分自身が幸せであることも関連しているかもしれません。一般的に、少子化の要因として、日本における女性の社会進出と、固定した性的役割分業、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という価値観、家族と一緒に過ごす時間よりも一人で過ごす時間を優先させたい」という「個人主義志向性」など、様々な指摘されています。そして、若者の幸福度や自尊感情が低下していることも、原因の一つであるのかもしれません。しかし、A高校での性教育講話の感想には、希望がもてる声もありました。

- ・悲劇が起きないようにすることが大事だと思いました。みんな、赤ちゃんがうまれてきてほしいです。
- ・相手の気持ちを敬って性と付き合っていくことが大切だと思いました。
- ・自分を大切に、相手へのリスペクトをしっかりとしました。
- ・男女がお互いを尊重することが大切だと思いました。 ・自分もあいても大切にしたい。
- ・人間はすごいと感じました。 ・1000グラム前後の赤ちゃんでも助かるようにしてくれていることに感動した。
- ・赤ちゃんが小さい時に死んでしまうことが少しでも減ってほしいと思いました。

性教育は、「自分も相手も大事にする」ことから始まります。年末年始に向けて、ご家庭でもあたたかい時間をお過ごしいただければと思います。人間万歳！